

資料2 昭和63年度年間指導計画

月	単元	時間	指導項目	指導内容
4	(はじめに)	2	家庭科は何を学ぶか	家庭科と男女共学の意義
	家庭生活の設計・家族	4	家庭の機能と家族	家族の人間関係と役割 家庭の機能
5	食生活の設計・調理	5	日本人の食生活	食事と健康 栄養素のはたらきと食品摂取
		2	調理実習の心構え	調理室の使用上の注意 調理の基本
6	食生活の設計・調理	3	調理実験	野菜の放水 食品の廃棄率
		4	調理実習1 和風の昼食献立	親子どんぶり、すまし汁 即席づけ
7・8	食生活の設計・調理	3	食生活の現状と食品の選択	食糧供給の現状 食品の安全性
		3	家庭生活充実のための実践	ホームプロジェクト
9	衣生活の設計	3	調理実習2 冷凍食品を使って	オムライス、コロケ フライドポテト
		1	被服の機能	着用の目的と機能
10	住生活の設計・住居の管理	4	衣生活の管理	洗剤のはたらきと洗濯の必要性 既製服と取り扱い絵表示
		3	調理実習3 幼児向けの献立	ピラフ、サラダ カスタードプディング
11	住生活の設計・住居の管理	4	住居の機能と設計	家庭生活の変遷と住居の機能 住空間の配置と能率化
		3	住居の維持と管理	住居の維持管理 住環境
12	両親の健康・乳幼児の保育	3	調理実習4 中国風の献立	古老肉、黄花湯、拔糸地瓜
		7	結婚と育児	愛と性 父性、母性の健康 妊娠の成立 胎児の成長 家族計画
1	家庭生活の設計・家族	4	乳幼児の保育	基本的な生活習慣の形成 集団保育の意義 母性保護の現行制度
		3	調理実習5 幼児のおやつ	マドレーヌ フルーツヨーグルトゼリー
2	家庭生活の設計・家族	5	家庭の経済	家庭の経済計画 物資の購入と消費 消費者問題
		3	調理実習6 ビュッフェパーティ	グラタン、オードブル
3	(まとめ)	1	家庭科を学んで	これからの学習に向けて

習後の意見・感想文をもとに生徒の姿容について検討、考察した。

1 生徒の姿容

(1) アンケートの結果

・「家庭一般」を学習し興味を持てた内容は、男女共「調理実習」がトップで、学びたい内容と一致する。「自分にも料理が作れた」という成就感が味わえたからであろう。

・「家庭一般」を学んでの男子の感想は、「男子にも必要」が二倍に増え、「いやだけど授業だから仕方なかった」が約二分の一に減った。

女子の感想は、「男子にも必要」が

少し減ったものの、「おもしろかった」が四十二パーセントもいて、男子が一緒だったことがよい刺激になったと考えられる。

・人生の目標で「お金をためる」と回答したのは約二十三パーセントで、昨年の一年生と比べて約二倍に増えた。これは、高齢化社会の問題やクレジットなどを取りあげた授業の影響によることも考えられる。

(2) 生徒の意見・感想

・僕は男だから「家庭」の授業なんて思っていたけれども、違う面から見た社会の姿や事情などが新鮮

だった。

・最初のころは家庭科なんて女がやってりゃいいと思ったけど、授業を受けるうちに大人になって役立つこと、家庭のことや社会になると厳しいこともわかり、学んでよかった。

・授業内容は楽しかった。これからは男女共学の「家庭」の授業を続けてほしい。男女一緒だとお互いいい。

2 研究の成果

(1) 従来の「家庭科」は、「料理・裁縫」というイメージが強かったが、実際の授業を通して「家庭科」本来

のねらいに即し、広く家庭生活を見つめる態度や、男女の家庭へのかかわり方について理解を深めさせることができた。

(2) 実験実習などの体験的学習は知識・技術の定着、興味・関心や学習意欲の向上の点で効果があり、男子も興味を示し積極的に参加した。

(3) 男女混合班による調理実習等の体験を通して、日常のホームルーム活動や部活動における男女の協力体制が一層強まってきた。

(4) 諸調査や授業研究を通し、全校職員「家庭一般」男女共学に対する認識が深まった。

なお、今後の課題として、男子は「家庭一般」二単位履修のため、生徒の家庭生活および地域の実態を考慮しながら、指導内容の精選と授業展開の工夫を図っているが、男女共に学ばせたい内容が多いので男子にも四単位履修を含めた指導計画の検討を進めたい。

六、おわりに

今回の研究によって、生徒たちが「家庭一般」男女共学の意義を理解し、学習意欲を高めるとともに、自らの家庭生活を見つめ直し、今後の生活への自覚を持つようになったことが大きな成果であり、更に指導の工夫・改善に努めたい。